

先週のポイント

特別勘定運用部
2016年1月4日号

日本株は円高を嫌気した株安からの戻りを試す一方、需給統計の悪化を背景に原油価格が再度下落したことが意識され、海外株式は小幅安。年末材料難の中、内外金利・為替も原油市況を睨みつつ小動き。

| | 2015年3月末 | 11月30日 | 12月25日 | 1月1日 | (年度始～) 2015年3月末比 | 11月30日比 | (前週末～) 12月25日比 |
|------------------|-----------|-----------|-----------|-----------|---------------------|---------|-------------------|
| 日経平均株価(円) | 19,206.99 | 19,747.47 | 18,769.06 | 19,033.71 | -0.9% | -3.6% | 1.4% |
| TOPIX(ポイント) | 1,543.11 | 1,580.25 | 1,516.19 | 1,547.30 | 0.3% | -2.1% | 2.1% |
| NYダウ(ドル) | 17,776.12 | 17,719.92 | 17,552.17 | 17,425.03 | -2.0% | -1.7% | -0.7% |
| S&P 500(ポイント) | 2,067.89 | 2,080.41 | 2,060.99 | 2,043.94 | -1.2% | -1.8% | -0.8% |
| ナスダック総合指数(ポイント) | 4,900.89 | 5,108.67 | 5,048.49 | 5,007.41 | 2.2% | -2.0% | -0.8% |
| ユーロストックス(ポイント) | 377.92 | 365.68 | 346.05 | 345.16 | -8.7% | -5.6% | -0.3% |
| 上海総合指数(ポイント) | 3,747.90 | 3,445.41 | 3,627.91 | 3,539.18 | -5.6% | 2.7% | -2.4% |
| 円/ドル(円) | 120.13 | 123.11 | 120.33 | 120.55 | 0.3% | -2.1% | 0.2% |
| 円/ユーロ(円) | 128.91 | 130.05 | 131.96 | 131.10 | 1.7% | 0.8% | -0.7% |
| ドル/ユーロ(ドル) | 1.0731 | 1.0564 | 1.0967 | 1.0875 | 1.3% | 2.9% | -0.8% |
| WTI 原油先物(ドル/バレル) | 47.60 | 41.65 | 38.10 | 37.04 | -22.2% | -11.1% | -2.8% |

*金利は変化幅

| | | | | | | | |
|--------------|------|------|------|------|-------|-------|-------|
| 日本10年国債(%) | 0.41 | 0.31 | 0.28 | 0.27 | -0.14 | -0.04 | -0.01 |
| 米国10年国債(%) | 1.92 | 2.21 | 2.24 | 2.27 | 0.35 | 0.06 | 0.03 |
| ドイツ10年国債(%) | 0.18 | 0.47 | 0.64 | 0.63 | 0.45 | 0.16 | -0.01 |
| イタリア10年国債(%) | 1.24 | 1.42 | 1.68 | 1.60 | 0.35 | 0.18 | -0.09 |
| スペイン10年国債(%) | 1.21 | 1.52 | 1.83 | 1.77 | 0.56 | 0.25 | -0.06 |

*市場が休日の場合は前営業日の数値を記載しています。

(出所)Bloomberg

先週の市場動向(内外株式)

国内株式 上昇

・年末を控え商いが細るなか、円相場が弱含んだことや個別銘柄ではリバウンドの動きも見られ堅調な展開。
・海外市場が比較的落ち着いた動きとなったことも支えとなり、日経平均は3営業日全てで上昇。大納会の日経平均は1万9000円を回復した。

東証33業種別騰落率

| | | |
|------|------------|-------|
| (上位) | 1 電気・ガス業 | 4.5% |
| | 2 ハルフ・紙 | 3.5% |
| | 3 水産・農林業 | 3.3% |
| | 4 卸売業 | 2.9% |
| | 5 銀行業 | 2.8% |
| (下位) | 1 ゴム製品 | -0.6% |
| | 2 石油・石炭製品 | 0.2% |
| | 3 輸送用機器 | 1.0% |
| | 4 食料品 | 1.1% |
| | 5 ガラス・土石製品 | 1.2% |

(出所)Bloomberg

外国株式 下落

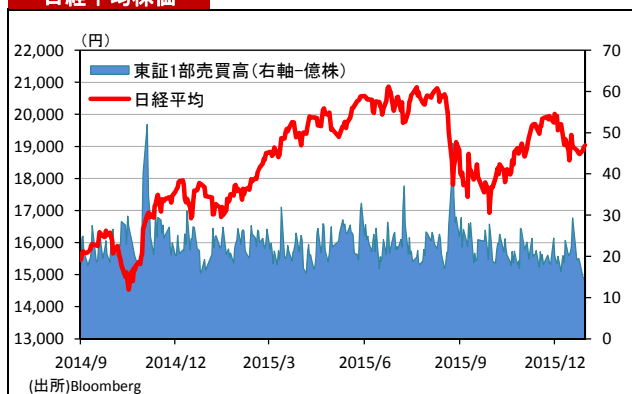
(米国)年末休暇を控え薄商いの中、材料も乏しく、原油価格の下落が響き、エネルギー・素材株を中心に下落を余儀なくされ、週間では下落。
(中国)週初、B株市場の急落を受け下落。その後回復するも、人民元安加速と金融緩和期待の後退を受けて売られ、週間でも下落。

S&P500業種別騰落率

| | | |
|------|--------------|-------|
| (上位) | 1 一般消費財・サービス | -0.4% |
| | 2 公益事業 | -0.5% |
| | 3 ヘルスケア | -0.6% |
| | 4 資本財・サービス | -0.7% |
| | 5 生活必需品 | -0.7% |
| (下位) | 1 エネルギー | -2.2% |
| | 2 素材 | -1.7% |
| | 3 電気通信サービス | -0.9% |
| | 4 金融 | -0.9% |
| | 5 情報技術 | -0.8% |

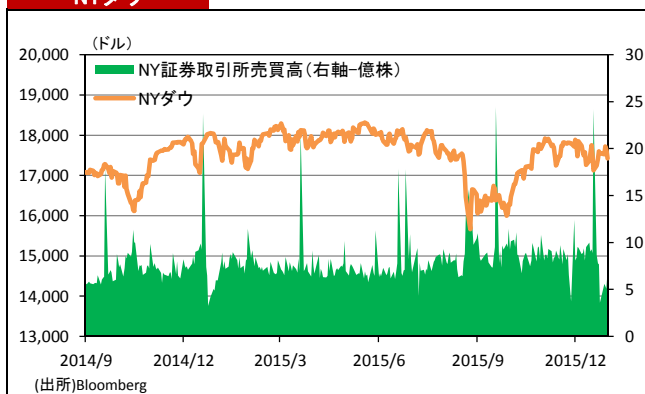
(出所)Bloomberg

日経平均株価



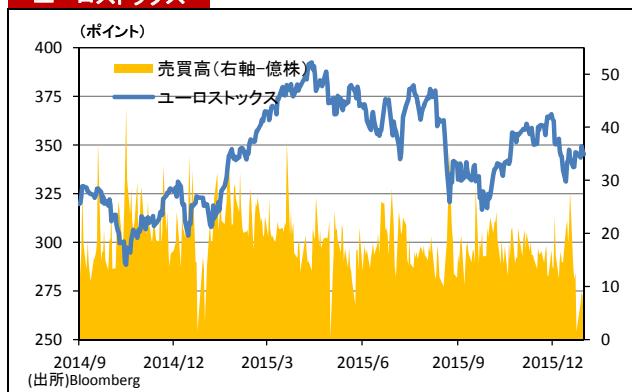
(出所)Bloomberg

NYダウ



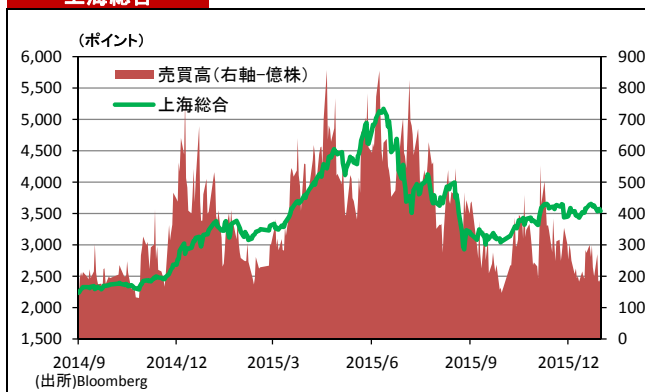
(出所)Bloomberg

ユーロストックス



(出所)Bloomberg

上海総合



(出所)Bloomberg

先週の市場動向(内外金利、為替、経済指標)

| | |
|---|--|
| 国内金利 小幅金利低下 | |
| 年末休暇で取引閑散。来年度の国債発行計画や、日銀による量的質的金融緩和の補完措置発表を受けて、引き続き需給環境は良好との見方が広がっており、金利は低下基調が継続。 | |
| 米国金利 上昇 | |
| 米国金利は週半ばにかけて上昇。原油価格が一時反発したことや、米5年債入札の結果が非常に弱かったことなどを受け、10年金利は一時2.3%台まで上昇した。 | |
| 為替 ほぼ横ばい | |
| 週を通じて120円台半ばを中心とした小動きが継続。週初、薄商いの中ドル高となる場面があったが、その後は目立った材料もなく、ドル円も次第に上値の重い展開となった。 | |

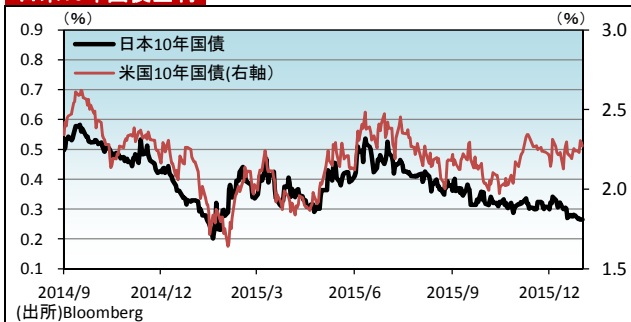
| 日本 | 経済指標 | 期間 | 予測 | 実績 | 判定 |
|-------|----------------|-----|-------|-------|----|
| 12/25 | 全国CPI(前年比) | 11月 | +0.3% | +0.3% | - |
| 12/28 | 鉱工業生産(前月比/速報値) | 11月 | -0.5% | -1.0% | x |

| 米国 | 経済指標 | 期間 | 予測 | 実績 | 判定 |
|-------|-----------------|--------|--------|--------|----|
| 12/22 | GDP(年率/前期比/確定値) | 7-9月期 | +1.9% | +2.0% | O |
| 12/23 | 耐久財受注(前月比/速報値) | 11月 | -0.6% | 0.0% | O |
| 12/23 | 新築住宅販売件数 | 11月 | 50.5万件 | 49.0万件 | x |
| 12/24 | 新規失業保険申請件数 | 12月19日 | 27.0万件 | 26.7万件 | O |
| 12/30 | 消費者信頼感指数 | 12月 | 93.5 | 96.5 | O |
| 12/31 | 新規失業保険申請件数 | 12月26日 | 27.0万件 | 28.7万件 | x |

| 中国 | 経済指標 | 期間 | 予測 | 実績 | 判定 |
|-----|--------|-----|------|------|----|
| 1/1 | 製造業PMI | 12月 | 49.8 | 49.7 | x |

(出所)Bloomberg

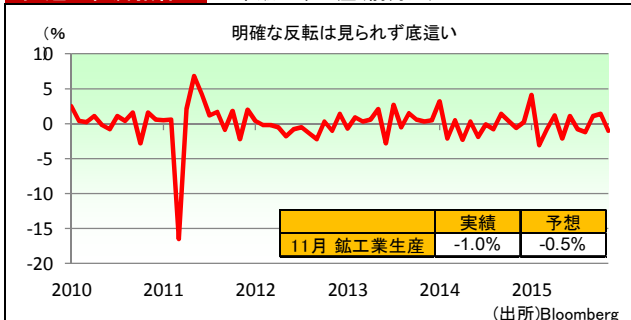
日米10年国債金利



為替



先週の経済指標1 日本鉱工業生産(前月比)



先週の経済指標2 米国消費者信頼感指数



2015年のマーケット

世界の主な株価指数、日米金利、為替の動き

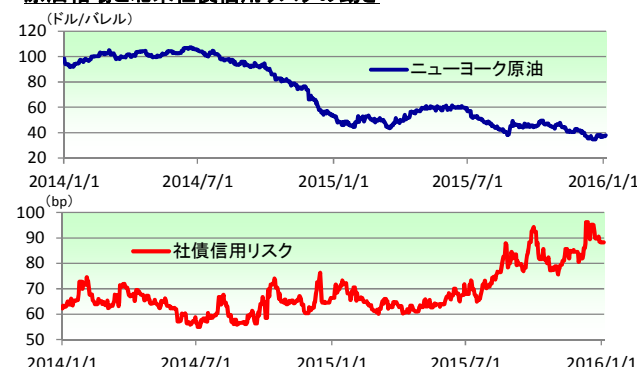
| | 2014/12/31 | 2015/12/31 | 変化率 |
|----------------|------------|------------|---------|
| 日経平均株価(円) | 17,450.77 | 19,033.71 | +9.1% |
| NYダウ(ドル) | 17,823.07 | 17,425.03 | ▲2.2% |
| ユーロストックス(ポイント) | 3,146.43 | 3,267.52 | +3.8% |
| 上海総合指数(ポイント) | 3,234.68 | 3,539.18 | +9.4% |
| 日本10年国債(%) | 0.33 | 0.27 | ▲0.06 * |
| 米国10年国債(%) | 2.17 | 2.27 | +0.10 * |
| 円/ドル(円) | 119.78 | 120.22 | +0.4% |
| ドル/ユーロ(ドル) | 1.2098 | 1.0862 | ▲10.2% |

* 金利は変化幅

(出所) Bloomberg

※ 右チャートの社債信用リスクは、北米の投資適格社債(5年ゾーン)の信用リスク(The Markit CDX North America Investment Grade Index)。

原油相場と北米社債信用リスクの動き



今後の見通し

週初、年末の海外市場を受けて弱含みのスタートとなるが、底堅い動きを見込む。

- ・年末の米国株式市場は、薄商いで材料難の中、30、31日の2日間で▲1.7%の下落(NYダウ)。年初の日本株も海外からの買いオーダーは少なく、中国株の下落の影響もあり大幅下落でスタートした(前場)。
- ・但し、原油も年末には下値で安定してきた他、週末には米雇用統計も控え、一時的な売りも想定し難い。一旦下値をつけた後は年初資金の発動とともにじり高の展開を見込む。
- ・2015年は、日経平均株価は年間で9%高と4年連続の上昇となったが、NYダウは2008年以來7年ぶりの下落となった。2016年も、強気派優勢で、日米ともに年央までに昨年来高値更新が市場コンセンサスと言えよう。
- ・一方で、リーマンショック以降の「先進国の金融緩和が株価を支える構造」の転換が米国市場で示現してきている可能性も否定できない。前半は世界景気の動向を反映する原油価格や米国クレジット市場に安定化の動きが見られるかに注目したい。

※ 現時点での市場見通しを示したものであり、当社の投資方針と必ずしも整合するとは限りません。

※ 本資料は当社が情報提供を目的に作成したものであり、保険募集を目的とするものではありません。

※ データの一部は当社が信用できると判断した情報源より作成しておりますが、正確性・完全性について当社が保証するものではありません。お問い合わせ先: 特別勘定運用部

※ 最終ページのご連絡事項についてよくお読み下さい。

今週の注目イベントなど

| 日付 | 国 | イベント | 予測値 |
|-----|---|---------------------|------|
| 1/4 | 米 | 12月 ISM製造業景況指数 | 49.0 |
| 1/4 | 中 | 12月 製造業PMI | 48.9 |
| 1/6 | 米 | 12月 ADP雇用統計(千人) | 198 |
| 1/6 | 米 | 12月 ISM非製造業景況指数 | 56.0 |
| 1/6 | 米 | FOMC議事録 | - |
| 1/8 | 米 | 12月 非農業部門雇用者数変化(千人) | 200 |

(出所)Bloomberg等

第一生命保険株式会社
TEL 050-3780-1007

特別勘定特約に関する重要なお知らせ

※本お知らせは保険業法施行規則300条の2に準用される金融商品取引法第37条に基づき、特別勘定特約に関して表示すべき広告等規制に関して記載するものです。

【手数料について】

- ・特別勘定特約に関する手数料(付加保険料)は、当社が引受けのご契約者の年金資産(責任準備金)のうち特別勘定部分の経過責任準備金を各口ランクごとの金額に分け(円貨建株式口は1型・2型を通算)、それぞれに所定の手数料の率を乗じて得た金額の合計額を毎年ご負担いただきます。
- ・以下の手数料率表については、経過責任準備金ランクの上限および下限のみ記載しております。

■手数料率表

| ●確定給付企業年金保険 ●厚生年金基金保険(Ⅱ) | 総合口 | 第2 総合口 | 円貨建 公社債口 | 円貨建 株式口 1・2型 | 円貨建 株式口 パッシブ型 | 外貨建 公社債口 | 外貨建公 社債口為 替ヘッジ型 | 外貨建 株式口 | 外貨建 株式口 パッシブ型 | 外貨建 株式口 新興国型 | 短期 資金口 |
|-----------------------------|--------|-----------|-------------|--------------------|---------------------|-------------|-----------------------|------------|---------------------|--------------------|-----------|
| 手数料上限 (1,000万円以下の部分) | 0.600% | 0.600% | 0.450% | 0.700% | 0.400% | 0.750% | 0.750% | 0.800% | 0.500% | 0.800% | 0.050% |
| 手数料下限 (500億円超の部分) | 0.220% | 0.220% | 0.155% | 0.230% | 0.110% | 0.230% | 0.230% | 0.240% | 0.210% | 0.240% | 0.050% |

| ●厚生年金基金保険 | 総合口 | 第2 総合口 | 円貨建 公社債口 | 円貨建 株式口 1・2型 | 円貨建 株式口 パッシブ型 | 外貨建 公社債口 | 外貨建公 社債口為 替ヘッジ型 | 外貨建 株式口 | 外貨建 株式口 パッシブ型 | 外貨建 株式口 新興国型 | 短期 資金口 |
|-------------------|--------|-----------|-------------|--------------------|---------------------|-------------|-----------------------|------------|---------------------|--------------------|-----------|
| 手数料上限 (10億円以下の部分) | 0.440% | 0.440% | 0.330% | 0.520% | 0.400% | 0.550% | 0.550% | 0.600% | 0.500% | 0.600% | 0.050% |
| 手数料下限 (500億円超の部分) | 0.220% | 0.220% | 0.155% | 0.230% | 0.110% | 0.230% | 0.230% | 0.240% | 0.210% | 0.240% | 0.050% |

※手数料=各口の(経過責任準備金の各ランクに当たる金額×所定手数料率)の合計

※消費税は別途申し受けます。

※上記のほか、資産運用の過程で売買の際に発生する売買委託手数料や、売買委託手数料に関する消費税に相当する金額、先物取引・オプション取引等に要する諸費用を運用費用の一部として間接的にご負担いただきます。なお、売買委託先、売買金額等によって手数料率変動する等の理由から、これらの計算方法は表示していません。

※運用効率の観点等から投資信託による運用を行う場合、投資信託に係る信託報酬を運用費用の一部として間接的にご負担いただきます。なお、信託報酬については投資信託の運用会社や投資対象資産によって手数料率が異なる等の理由から、計算方法を表示していません。ただし、第2総合口における私募投資信託の手数料については、「ご契約のしおり」をご覧ください。

※上記の手数料には、一般勘定(主契約)の付加保険料、制度管理等に係る各種業務委託費、年金数理人費は含まれておりません。

【特別勘定特約 第2総合口の投資対象について】

第2総合口では、新興国債券、新興国株式、REIT(不動産投資信託証券)を投資対象とするため私募投資信託を用いて運用を行っております。投資対象の詳細については、「ご契約のしおり」をご覧ください。

【損失発生リスクとその発生理由】

- ・特別勘定特約は、一般勘定(主契約)の責任準備金(保険料積立金)の一部を特別勘定で運用し、この運用実績を直接、責任準備金(保険料積立金)に反映させる仕組みの商品です。
- ・特別勘定は、国内外の公社債、株式等を運用対象とするため、「株価の下落」「金利の上昇による債券価格の下落」「円高による外貨建資産価値の下落」等といった投資対象資産の価格下落リスクは責任準備金(保険料積立金)の下落要因となります。資産運用の結果は、その損失も含めてご契約者に帰属します。
- ・経済情勢や運用成果のいかんにより高い収益を期待できる反面、元本(特別勘定に投入された保険料の合計額)の保証はなく、運用実績が元本を下回ることがあり、損失を生じる可能性があります。

【ご留意事項】

- ・特別勘定における資産運用の成果がご契約者の期待どおりでなかった場合でも、当社または第三者がご契約者に何らかの補償、補填をすることはありません。
- ・特別勘定での運用にあたっては、ご契約者が特別勘定の特徴を十分理解した上で、ご契約者の判断と責任において行わなければなりません。

第一生命保険株式会社
東京都千代田区有楽町1-13-1
電話 03(3216)1211(大代表)